

鯉淵学園 教育研究報告 編集委員

委員長	野口 貴彦 (分子生物学)
委員	高田 良三 (家畜栄養生理)
委員	前嶋 智 (作物保護)
委員	浅津 竜子 (給食管理学)
幹事長	勝山 由美 (栄養指導)

編集後記

令和7年は、「令和の米騒動」が起き国内は激動の一年となった。米の5kg当たりの平均販売価格が2,000円台から4,000円台へと2年間で急騰したため生産、流通、消費のそれぞれの段階で多くの混乱が生じた。この編集後記の執筆時点では、多少の落ち着き（販売価格の低下など）は見せているが、予断を許さない状況が続いている。農と食に係る我々としては、この問題が今後どのように推移するのか見守り、分析・評価する必要があると思う。

今年度も無事に教育研究報告第36号を発行することができた。本号には、総説：1報、報文：3報、事例報告：1報、解説：1報、随想：1報の計7報を掲載できた。農業と食、教育に係る示唆に富んだ論文がバランスよく掲載でき、充実した内容になったと自負している。これはまさしく本校教職員が研究・教育活動へ積極的に取り組んだ結果であると言える。また本号では、学外から宮崎先生（茨城大学人文社会科学部）と山内氏（島やさい工房「かめさんといっしょ」、51期生）より投稿いただいた論文を掲載することができた。今後も積極的に学外からの投稿を受け付けたいと思う。そして、本校卒業生の山内氏による投稿は、実に第17号（平成13年3月）掲載の箱石正氏（4期生）以来となった。本誌は、鯉淵学園同窓会が中心となって創刊された経緯があり、今後とも多くの同窓生からの投稿を期待したい。

筆者は、編集委員長としてこの第36号の発行より三期目に入ることとなった（二期6年、計6号を発行済み）。これまで編集委員長在任歴が最長だったのは、山本昌弘先生（第六代委員長）の在任5年間（計5号を発行）であったが、それを超えることとなった。また、西村典夫先生（第二代委員長）は、記録上は在任5年間（計4号を発行）とされているが、その前後を含めた創刊初期の20年間（計9号を発行）を、ほぼ編集委員長として携われていたことが窺える。この長きにわたる功績は、心からの尊敬に値する。筆者が、西村先生の携われた20年間にこれから並ぶことは不可能だと思うが、発行数の計9号に並べる可能性はある。改めて気を引き締め直し、新たな編集委員と協力し編集作業に臨む所存である。

最後に本校の更なる教育・研究活動の発展を目指し、教職員各位には鯉淵研報への積極的な投稿を頂くなど引き続きご協力をお願いしたい。

(第九代編集委員会委員長 野口 貴彦)

鯉淵学園 教育研究報告（略称：鯉淵研報）第36号

発行日	2026（令和8）年3月31日
編集人	野口 貴彦
発行所	鯉淵学園農業栄養専門学校 学園長：平原 信男 〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町 5965 電話 029-259-2811 FAX 029-259-6965 https://www.koibuchi.ac.jp/
印刷所	茨城県水戸市松が丘 2-3-23 佐藤印刷株式会社（電話 029-251-1212）
